

## 災害ボランティア活動報告 (No. 17)

**活動場所:**宮城県亙理郡山元町作田山（斎藤様の農地）

**活動内容:**ビニールハウスでの葉っぱの選定作業、作物の茎のクリップ作業。農地の収穫後の片づけ作業。

**参加者:**メンバー（木下史典、森本次郎、都築一憲、大久保隆史、浅野健一、榎戸孝行、斎藤大作、船木淳悟）、一般参加、ネット参加の皆様。（合計 38 名）

**活動報告:**『親子で震災ボランティア体験』in MIYAGI、ボランティアバス第 6 弾です。

今回も、斎藤さんの農地に行きました。

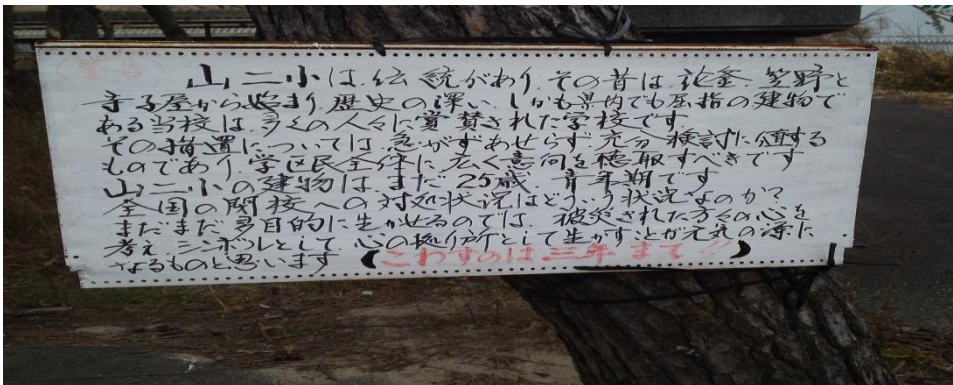
総勢 38 名で、11 月 30 日の金曜日の夜に、千葉県四街道発で、西船橋駅、錦糸町駅、佐野 SA 経由（栃木県宇都宮市の 2 名の方が参加して下さいました。佐野で合流。）で現地山元町へ向かったのですが。現地に着くと猛吹雪になってしまいました。

現地視察の時まで雪は降らなかったのですが、作業中は猛吹雪でした。お聞きしたところ初雪だそうです。吹雪の歓迎を受けました。



**※被災現場:山元町立山下第二小学校前にて集合写真。**

こちらの校舎は取り壊しが決まっているようです。震災後の瓦礫が堆く積まれたままです。頑丈なコンクリートで出来た校舎が廃墟になるように、津波の威力の怖さが感じられます。



**※山二小に対する、地元の方の熱い思いが伝わる掲示板が立っていました。**

寺小屋が前身の歴史の深い小学校だったのでですね。

山下第二小学校は、建て替えてから 25 年程であり県内屈指の建物だったそうです。

当時の新聞記事が WEB にあり、読み返したのですが、避難して走ってきた男性が『何やっているんだ。早く逃げろ。津波が来るぞ。』との怒声に、大田教諭は、こんな事やっている場合ではないと我に返り、確認作業をやめて、先生たちの車で役場に子供達をピストン輸送したそうです。あの一声がなければ、逃げ遅れて全滅したかもしれないとの事でした。

児童は全員無事であり、最後まで残った渡辺校長は、その後來る保護者に対して児童の避難を伝えるためだったそうです。最後の児童が避難したあと、300 メートル先の防波堤を津波が越えてきたそうです。その責任感の強さに敬服します。

そして 2 階に逃れ、翌朝自衛隊のヘリで救助されたそうです。

マニュアルにはない初期判断が生死を分けました。男性の一声がなければとゾッとします。

**作業行程:**視察の後、猛吹雪に見舞われ急遽予定を変更し、男性陣はナス畑の撤収作業、女性と子供達はハウス内作業をして頂きました。



**※現場に着いたら猛吹雪の歓迎です。**

**※ナス畑の撤収作業、一日で終わるのか。**



**※ナス畑が皆さんのおかげで綺麗になりました。※暖かい飲み物、お漬物を頂きました。**



**※小学生の女の子も頑張ってくれました。 ※採れたてのパプリカを頂く。旨いです。**

男性陣は吹雪の中での作業、写真のようにナス畑の撤収作業、鬱蒼とした中で当初終わるか心配だったのですが、皆さん力を合わせてくださり、作業がみるみる進み終わることが出来ました。

女性の方や子供達は、暖かいハウス内で、葉っぱの選定、作物が倒れないようにクリップ作業をしました。小学生の女の子も頑張ってくれました。作業後、また採れたてのパプリカを頂きました。本当に美味しく疲れが癒されました。

皆さん本当に有難うございました。感謝いたします。今回は、前回伺ったさい建てたビニールハウスで縮みほうれん草が元気に育っていました。感激でした。これからも支援の顔の見えるボランティアを続けて参ります。皆様のご支援ご協力お願いいたします。



**※前回お伺いした時の、ハウス作り。 ※前回作ったハウスで、縮みほうれん草が育っていました。**

※帰りには斎藤さんより、大根、パプリカ、ピーマンを頂きました。いつもいつも有難うございます。ボランティアさせて頂き感謝です。